

明石工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語Ⅲ-1(留学生科目)	
科目基礎情報							
科目番号		5321		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		機械工学科		対象学年	3		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		＜教科書＞ 細井和雄編著『理系留学生のための 自然科学の日本語』（スリーエーネットワーク）、友松悦子著『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク） このほか、担当教員がプリントを作成し配付する。					
担当教員		久保田 育美					
到達目標							
1. 自然科学に関するさまざまなトピックに関する長いテキストを読んで内容がわかる。 2. 広汎な範囲の話題について詳細なテキストを作ることができ、自己の視点も説明できる。 3. 内容が抽象的でない限り、流暢かつ自然にやりとりすることができ、相手や場面に応じた言葉遣いができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		テキストを読んで内容がわかり、自分のことばで内容が説明できる。		テキストを読んでほしい内容がわかり、テキスト内の言葉をそのまま用いれば内容が説明できる。		テキストを読むことができず、ほとんど内容が説明できない。	
評価項目2		詳細かつ明瞭な構成でテキストが作れる。また、あるトピックに対する自己の視点が述べられる。		ヒントや助言があれば、詳細かつ明瞭な構成でテキストを作ったり、あるトピックに対する自己の視点を述べたりできる。		詳細かつ明瞭な構成でテキストを作ったり、自己の視点を述べたりできない。	
評価項目3		さまざまな話題で、流暢かつ自然にやりとりできる。また、相手や場面に応じた言葉遣いができる。		多少不自然な部分はあるが、ある程度流暢にやりとりできる。また、相手や場面に応じた言葉遣いをしようとする姿勢が窺える。		流暢で自然なやりとりができず、相手や場面に応じた言葉の使い分けがわからない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		受講生はこれまで幅広いトピックを通じて言語知識やスキルを獲得してきたと思う。本授業では、より専門性の高い自然科学分野の読み物を通じて、受講生が日本語能力を総合的に伸ばすことを目的とする。またそれと同時に、自己の視点を他者に伝える練習に焦点をあて、専門性の高いトピックについて意見や提案が伝えられるようになることを目指す。					
授業の進め方・方法		教科書と配布プリントを用いて授業を進める。					
注意点		評価の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業の目標および内容を把握する。			
		2週	化学（自然科学の日本語1）	化学に関する内容の文章から必要な情報が読み取れる。			
		3週	化学（自然科学の日本語1）	本文の大意を自分の言葉でまとめられる。			
		4週	化学（自然科学の日本語2） 要点を説明する	化学に関するさまざまな語、表現に触れ、既存知識と照らし合わせて意味を確認し、使い方がわかる。			
		5週	化学（自然科学の日本語2）	難しい表現や慣用句の意味がわかり、別の言葉で言い換えられる。			
		6週	化学（自然科学の日本語2） 教訓を述べる	本文の内容から得られる教訓について述べられる。			
		7週	工学（自然科学の日本語4）	工学に関するさまざまな語、表現に触れ、既存知識と照らし合わせて意味を理解し、使い方がわかる。			
		8週	工学（自然科学の日本語4） 考えを共有する	今後のロボットの開発や展望について自分の考えが書ける。			
	2ndQ	9週	工学（自然科学の日本語4） 考えを共有する	第8週の内容について、他者と考えを共有しディスカッションできる。			
		10週	まとめと振り返り	授業を通して新たに発見したこと、考えが変わったこと、さらには自分の日本語の能力と技能がどうなったかについて説明できる。			
		11週	情報科学（自然科学の日本語7）	情報科学に関する内容の文章から必要な情報が読み取れる。			
		12週	情報科学（自然科学の日本語7）	母国における技術開発や取り組みについて情報を収集し、それらの情報をまとめることができる。また、情報の扱いについて理解できる。			
		13週	情報科学（自然科学の日本語7） 情報収集する	データの説明や調査結果を示すときに効果的な表現がわかる。また、第12週で得た情報（データ）を分析し、まとめられる。			
		14週	情報科学（自然科学の日本語7） 結果を報告する	第13週の内容を他者に伝えるための効果的な日本語表現、技法がわかる。			
		15週	情報科学（自然科学の日本語7） 結果を報告する	自分が知っている技術開発や母国における取り組みについて他者に紹介できる。			
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	4	前2,前4,前7,前11,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後9,後10,後13
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	4	前3,前5,前6,前8,前13
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	4	前9,前15,後1,後10,後12,後14,後15
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	4	前9,前15,後12,後15
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	4	前9,前15,後12,後14,後15
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4	前9,前15,後12,後14,後15
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	前9,後12,後15
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	前12
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	前12
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前12
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前13
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前13
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	前13
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	前12,前13,後7
				複数の情報を整理・構造化できる。	4	前3,前6,前8,前10,前12,前13,前15,後6,後7,後8,後11,後13
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	4	前6,前8,後7,後11,後12,後13
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	前6,前8,後11,後12,後13
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	前10,後8,後14,後15
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	4	後11,後12,後13
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	4	前15
評価割合						
		試験	課題	ポートフォリオ	合計	
総合評価割合		50	40	10	100	
基礎的能力		50	20	0	70	
専門的能力		0	0	0	0	
分野横断的能力		0	20	10	30	